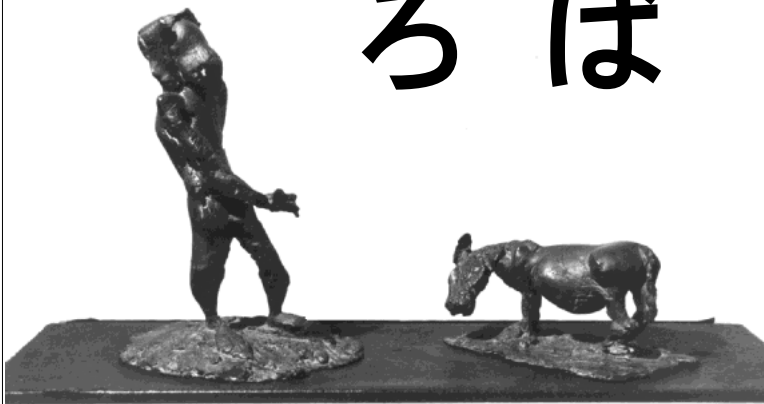


ろば



百人町教会

集会案内

礼拝：毎週日曜 午前10時半
於 東京家政専門学校2階
聖書研究会：第1・3水曜 午後7時
於 石原宅

連絡先：〒162-0066 東京都新宿区
市谷台町14-1-701 賈晶淳 方
TEL/FAX 03-3351-0807

<http://www.hyakunincho-church.com>

郵便振替口座：00180-8-565379



私の目線（七六）

文集は「へもんじゅう」か「へぶんしゅう」か

神鷹 徳治

神鷹は三月末日をもって、明治大学文学部を退職いたしました。高校の教員と大学の教員、その間四十年は誠に長い四十年でした。その間高校教員の時から持っていたテーマが、中国の文人、日本にも馴染みの深い白楽天（七二一―八四六・諱は居易、楽天は字）でした。

先日、日中合作映画「空海」を見に行きました。空海（七七四―八三五）は白楽天とほぼ同世代の人物であります。映画では白楽天と空海が無二の親友として登場しますが、これはフィクションです。歴史的事実としてはこの二人は長安に住んではいましたが、交流乃至影響はありませんでした。小説といっても歴史小説には条件があり、事実でないことを文章とすることは、評価されないとされています。空海の中国での活躍を描いた日本文学の作品としては、司馬遼太郎の「空海の風景」が傑作として今でもまだよく読まれております。問題となるところは空海が中国大陸に上陸して、長安に向かう途中、白楽天の「長恨歌」の歌が流れてきて橘逸勢とともに感動している一章があります。ところが事実としては空海が中国大陸に上陸したときにはまだ、長恨歌は成立していないのです。少なくとも人々から司馬遼太郎のミスであると指摘されていました。もちろん司馬遼太郎はその批判を知っていたとは思いますが、彼の本

が文庫本になってからもその本文の修正はありませんでした。ところが神鷹はたまたま彼が亡くなった後に文庫本を入手して、その個所を紐解いたところ、なんと司馬遼太郎の訂正文が挿入されていたのであります。その時（空海が中国大陸に上陸したとき）はまだ長恨歌が成立していなかったとの記述が追加されています。私はこの本の後書きを見たところ、追加のことについては全く触れておりませんでした。私は作家としてこの態度はおかしいのではないかと、思います。もちろん司馬遼太郎は作家であって研究者ではありませんから、事実の有無については間違うこともありうると思います。どうして新版の文庫本にはこれらの事情が説明されていないのかと、不思議に思います。

白楽天の著作は「白氏文集」と呼ばれており、その文集という二字を「もんじゅう」と呼んでいます。日本の漢字は中国より伝来したのですが、同じ漢字でも伝来した時代が異なるとその発音が異なります。文部省の文は呉音で「もん」と読みますが、文学部の文は漢音で「ぶん」と読まれております。白楽天の白氏文集の文集は普通「もんじゅう」と読まれますが、実は明治二十年代以前は、漢音で「ぶんしゅう」と読まれています。広辞苑は元来「はくしもんじゅう」と読んでいましたが、最新の第七版では「はくしぶんしゅう（はくしもんじゅうとも読む）」との記述が登場しました。これは私の喜びであります。

わたしには夢がある

使徒言行録二章一四―二一節

賈 晶淳

今日の証詞は一ヶ月前（三月四日）の牧師日誌にも書きましたが、あと二年後に来る百人町教会の創立五〇年のことを考えながら準備しました。それで選びましたのが今日の聖書であり、題です。

使徒言行録の二章は一節から一三節までがペンテコステに関連する内容で、一四節から四一節までが一括りでペトロの説教になっています。このペトロの説教はイエスの復活と昇天の後、弟子たちのみの力でイエスの福音を伝えようと思い始めた頃の最初の説教として知られている内容です。今日はその前半部だけを選んで読みました。

ペトロはイエスの愛弟子の一人であり、重要な目撃者の一人ですので、イエス以後の証言者として最もふさわしい人物でありました。ですから使徒言行録の最初の説教者として登場するのはごく当たり前のことと思えますが、私自身の思い込みの中にはあのペトロがという気持ちもあつたのをここで告白します。と言いますのは福音書には弟子たちの説教は一つもありませんし、イエスの弟子に選ばれるまではガリラヤ湖の漁業労働者の一人だったことを覚えているからです。当然いけない偏見だと思ひ、直ぐ反省しました。その後にも、最初の説教を前にした彼の思いはどんなものであつたのか、心細くはなかつたのか、怖れ

はなかつたのかとまた余計な思いまでしてしまいました。自分がそうですので。

しかし、ペトロはペンテコステに起きた聖霊降臨事件を経験する中、大勢の人の前でも大切な説教をしました。ここで今日の箇所である彼の説教の全てについて説明できませんが、その主な内容はイエス以後のペンテコステ、即ち教会の始まりに当たり、神の救いの新しい歴史の扉を開くということです。そして、現代におけるもう一人の説教者についてこの後に紹介したいと思いますが、その方の説教もこのペトロの説教を思い出させるような内容で、力強い説教であります。

先ず、今日の聖書について申し上げたいと思ひますが、一七節から二一節までのところが『』の中に入っています。この部分は旧約聖書のヨエル書三章一―五節の引用です。ペトロの最初の説教の内容として旧約聖書の預言書が引用されたのは、イエスと同じく、彼らがヤハウェ神に連なる集団であることを示すものであります。預言者の伝統の上にイエスの福音を関連させているのです。

その中で二一節の「**主の名を呼び求める者は皆、救われる**」という言葉はキリスト教宣教において大変重要な言葉です。ペトロの場合、この主は神ではなく「イエス」で、彼以後のキリスト教においてこの内容は信仰告白に連なる重要な宣言でもあります。これをもつて親鸞が名号、即ち、「南無阿弥陀佛」を唱えることで救われるのと同じ次元の信仰だ

という日本のキリスト者もいたようですが、南無というのは「帰依」というとても良い意味ですが、「南無イエス」と繰り返して唱える習慣はキリスト教にはありません。それにこの箇所は元々ヨエル書三章五節aの引用で、ペトロは三章一節も引用しています。その後、わたしはすべての人に**わが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し、老人は夢を見、若者は幻を見る。**

このヨエル書の言葉と少し異なるところがありますが、ペトロの説教の一七節のところと並行箇所では今日はこの内容について主に考えて見たいと思ひます。

神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。

ペトロの説教の前半部の内容はこの日、ペンテコステの聖霊降臨事件が、ヨエルの預言の内容と同じく、神の霊が注がれたと理解したものです。そして、後半部の内容は預言や幻や夢について語っていますが、聖書で幻や夢とは神の救いの約束が啓示される時に手段として働きます。

この聖句に関心をもちましたのは、今日の後に教会総会が開かれますが、創立五〇年を迎えるにあつて「今年の聖句」としてどうかとの思いもあつてのことです。ペンテコステのペトロのように、皆さんも五〇年前にはまだ若く、預言を語りながら百人町教会を

始めようとしたのでしよう。その歩みと歴史は教会誌「ろば」にちゃんと書き残されています。初めからの方や「ろば」を最初から読まれた方は覚えておられると思いますが、「ろば」の第二号に掛井五郎さんが「あなたは何を見るか」とエレミヤ書一章一節を引用して文章を書き残しています。その内容は預言者エレミヤの召命記事の一部でエレミヤが見た二つの幻の話です。一つは「アーモンド」で、もう一つは「北からの鍋」です。両方も当時の時代的な変化に気づいたことを表したことと思いますが、要するに預言者の夢や幻は歴史の中で神の救いや裁きの内容を預言したものです。その幻を見ていた頃のエレミヤもまだ若者だったのです。五〇年前の皆さんはエレミヤのように幻を見る方々でした。

しかし、今はもうその頃より五〇年も歳を重ねるようになりました。ですからお疲れ様でしたということではありません。今日の聖句はそのようなことを全く語っていません。その逆の話です。まだまだやることがありま

すという内容です。若い方には是非預言を続け、幻も見たいです。しかし、ご自分が老人と思われる方にも是非やって頂きたいことを預言者ヨエルが、使徒ペトロが、語っているのです。それは「老人は夢を見る」という言葉です。この言葉は私たちがやるべき神の働きがまだまだあるということです。

夢と関連したもう一つの話があります。先ほど申しましたが、ペトロのような説教者

についての話です。偶然にも四日前の四月四日はマーティン・ルーサー・キング牧師が暗殺されてから五〇年となる悲しい日でもありました。キング牧師が亡くなったのは三九歳の時でした。とても若かったのです。彼は五〇年前からこの世にはいない人ですが、彼の息と夢は今も残り、生きて語り継がれているのです。そして彼は一九六三年八月あの有名なワシントン行進の時にリンカーン記念館の前で「I have a dream」「わたしには夢がある」という世界の人々の心に残る演説をしました。今もその夢、その預言は人類が必要とするものです。きっとキング牧師も私たちが今読んでいる箇所を読んでいたと思います。

ヨエルの夢、ペトロの夢、キング牧師の夢には共通点があります。それは夢を通して示される神の救いの内容です。使徒言行録の続く一八節に書かれています。

わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。わたしの夢やはしたためにも、そのときには、男も女も、若者も老人も、自由人も奴隷も、全ての人が神の民となり預言するという内容です。素晴らしい解放への宣言です。ペトロにもそれに負けない夢がありました。彼はユダヤ人だけでなく異邦人にも神の救いがあると夢見ていました。そしてキング牧師に至っては全ての人種が、黒人も白人も神の救いの対象となるという夢を見ていました。これらの夢は私たちの夢でもあります。

夢は時代と環境によって少し形を変えてい

るように見えますが、聖書の夢は私たちが信じている神の救いの内容であります。例えばその救いの内容が自由であり、平和であり、正義や愛であるとすれば、その夢が何にもないところで示されるではありません。必ず自由は抑圧の場所、和解と平和は争いの時に、正義は不義が行われるところで、そして愛は憎しみが蔓延しているところで語られます。ですから夢は相対的であり環境によって逆の概念で示されるのです。その意味で聖書の夢とは現実の批判でもあり、預言であり、祈りであることです。聖書には老人が夢を見る内容が多く書かれています。何の希望も見えない時と場所で老人の夢は語られます。アブラハムの夢、ヤコブの夢、モーセの幻、シメオンの夢などです。

今日の証詞の題は創立五〇年を前にした教会のことを思い、最初は聖書そのままに「老人には夢がある」としようかと思っていました。が、「老人」という三人称より、「わたし」という一人称の方がヨエルの預言にもペトロの説教にも、そして百人町教会のこれからも良いのではないかと思ひまして、キング牧師の言葉からお借りしました。今後しばらく「ろば」も五〇年を迎える内容でシリーズを組む予定ですが、同じく証詞に於いても皆さんの夢を語って頂ければと願っております。「わたしには夢がある」いつまでも夢を見る人になりたいと思っております。

(二〇一八年四月八日証詞より)

韓半島の平和構築はもはや夢ではない

趙 容来

米朝間の六・一二シンガポール・サミットは実に意味深い。翌日の韓国朝刊新聞の一面トップ記事の題目などをみればすぐ読み取れる。「七〇年敵対を超える」「韓半島の平和、偉大なる旅程始まる」「冷戦の壁を越えて平和の手を結ぶ」「米朝、敵対関係清算の初歩み」「CVIDなき合意」等々。北朝鮮樹立(一九四八)や韓国戦争(一九五〇〜五三)以来、米朝首脳会談は初めてのことだ。とくに昨年では米朝ともに相手に対して軍事攻撃などを口にしていただけに両国の首脳会談の実現は非常に劇的だ。

ただし、歴史的な意味合いはともかく、採択された共同声明の中身は物足りないともいわれている。首脳会談が開かれる以前から米当局が繰り返し強調してきた完全な非核化、つまり「完全かつ検証可能で不可逆的な非核化(CVID)」については具体的な内容が欠けているからだ。また、韓国戦争の終結についても触れていない。北韓の非核化における難題は先送りにされた形に止まっている。

にもかかわらず、米朝首脳会談は大変な成果だ。米朝首脳会談は実現されるだけで、大きな一歩を踏み出したことになる。共同声明の中ではCVIDが抜かれているといわれているけれども、同じく米国の北朝鮮に対する体制保証についても触れていない。共同声明文の署名式の中で「包括的な内容をまとめた」というドナルド・トランプ米国大統領の説明があつたように、非核化を含めた米朝間の関係改善の問題は今後の課題になってきた。問題はその「今後」という時点がいかに圧縮的に行なわれるかにかかっている。とにかく今回の米朝首脳会談だけをみて成果なしという分析は気の早いことだ。むしろ南北・米朝間の激変ぶりの背景や昨今の韓半島をめぐる大筋の流れの転換について注目すべきであろう。

劇的な反転の始まり

昨年の韓半島は、北朝鮮の核や長距離ミサイルの脅威が最高潮に達して韓国戦争以後の最大の軍事的な危機に陥っていた。韓国は否応なく米国の要請に応じて高高度防衛ミサイル(サード THAAD)を配備して中国の反発を買った(四月)。それにも関係なく北朝鮮は、大陸間弾道ミサイル(ICBM)を発射したり、六度目の核実験(九月)までも行なったりした。

相手に対する言葉の爆弾も飛び交った。北朝鮮は韓国に対して「ソウルを火の海にしてやる」と脅かした(七月)。トランプ大統領は、北朝鮮に向けて「これ以上アメリカを脅すな、さもなければ世界のどこでも見たこともない怒りと炎に直面するだろう」と警告した。韓半島に一触即発の危機感が高まっていた。

なのに韓国は何の対応もせず事態を見守るしかなかった。むしろ、五月に新しく誕生した文在寅政権は訪問先のドイツで北朝鮮体制の安全保障と韓半島非核化などを盛り込んだ「韓半島の冷戦構造解体と恒久的な平和定着

のための宣言(新ベルリン宣言)」を発表した(七月)。多くの人々が「新ベルリン宣言」について、韓半島の危機状況にふさわしくない無気力な対応だと非難した。しかし、私はこの「新ベルリン宣言」以来、南北間の何らかの疎通ないし認識の共有が始まったのではないかと思う。

北朝鮮の具体的な反応は今年一月一日行なわれた金正恩國務委員長の新年演説から始まった。金委員長が北朝鮮の平昌冬季オリンピック参加を公言した。以後の南北韓の急接近ぶりはめまぐるしい。南北間の実務会議はもちろんのこと、北韓からの特使派遣などを通して、平昌冬季オリンピックは、スポーツの祭典だけではなく、南北間の対話再開、ついに四・二七南北首脳会談の開催までに広がった。その勢いは韓半島に止まらず、南北米間の対話へとエスカレートした。六・一二米朝首脳会談も推進・中止・再推進などの紆余曲折があつたものの、実際に開かれたではないか。この一連の流れは実に文大統領の「新ベルリン宣言」から始まったわけだ。

韓半島平和構築の最後のチャンス

南北・米朝関係が解氷のムードに成り代わった理由は何か。まずは経済制裁効果論だ。国際社会の共助もいわれている。特に経済制裁に中国が積極的に参加していることは、非常に効いたらしい。北朝鮮も二〇一一年一二月金委員長が登場以来、市場経済がある程度進んでいるので、経済制裁は国内市場にその

まま圧迫となる。当局は、人民の不満を抑えるためにも何とか打開策を考えねばならない。国際社会との対話が必要になってくるわけだ。

金委員長も悩んだらう。対話策に転換すべきか、このまま核・ミサイルにものを言わせるべきか。いずれにせよ、自らの権威と権力をそのまま維持しながらの対応策を工夫する際、文大統領の「新ベルリン宣言」に遭遇した。というところで決断が始まったかも知れない。いわゆる金委員長の決断説だ。

もっと大切なのは、韓半島問題に臨む韓米両政権の政策的な一致だ。北核だけに絞っていうならば、韓米ともに問題解決のために努力してきたものの、残念ながら実際の政策についてはいつも噛み合わず、結果的に解決までには至らなかった。ここ三〇年間、北核問題の当事者である韓米それぞれ政権の対北朝鮮政策は不調和が繰り返された。米国の進歩的な民主党政権は北核問題を対話で解決しようとしたが、保守の共和党政権は強攻策に一貫した。同じく韓国の進歩政権も北朝鮮との対話に積極的だが、保守政権は消極的だった。米国の進歩政権の韓国パートナーはいつとも保守政権だった。その逆の場合もあった。

たとえば、ビル・クリントン政権(九三〇—〇一)と金泳三政権(九三—九八)、金大中・盧武鉉政権(九八—〇八)とジョージ・W・ブッシュ政権(〇一—〇九)、バラク・オバマ政権(〇九—一七)と李明博・朴槿恵政権(〇八—一七)の不調和は北核問題においてそのま

ま露呈された。残るは失敗だけだ。

ところが、二〇一七年一月誕生したトランプ政権は、以前の保守と異なって北核問題を実利的に臨む。「アメリカ・ファースト」を掲げているトランプ大統領は、自分自身に有利となるならば、何でも挑戦する。彼は北核問題解決を梃入れとして自分自身の政治的な位相を高めようとする。まずは今年一月に行われる中間選挙での勝利、また二年後の大統領再選勝利までも望む。その彼が文大統領から北朝鮮の心境変化のことや核問題解決の可能性について説明を受け、大きな一歩を踏み出したのだ。このような好条件は北核問題と来ないはずだ。今回が最後のチャンスかも知れない。

非核化の方式・一括的か段階的か

トランプ大統領は当初非核化の方式についてCVIDを一括的に処理すると主張した。反面、北朝鮮は段階的にすべきと強調した。北朝鮮との非核化交渉の経験がある米国は段階的な解決について強く反発している。過去と同じ轍を踏んではならないという。北朝鮮が過去段階的な解決合意をしてからも実行はせず合意を反故してしまったことがあったからだ。ただ非核化は「核凍結・核及び核施設の申告・検証・解体」のことを意味するので、それぞれの段階を一括に処理することは物理的にも不可能だ。つまり非核化の交渉は一括的に行なっても実行は段階的に進むべきだ。

一括的と段階的という意味は事実上つながっている。北朝鮮が求めている体制保証、そして韓米が求めている核兵器や核施設の廃棄と平和構築は、両側の意思確認と宣言に基づいて一括的に行ない、核と核施設の廃棄検証などは段階を踏んで緻密に実行すべきだ。

今回の米朝首脳会談は、米朝両国が核廃棄と体制保証の意志確認と宣言を一括的に行なった段階だと思われる。もっと具体的に核廃棄のロードマップを掲げるとか、体制保証の中身や時期などが宣言されるかと期待していたが、それは今後の課題になった。

韓半島の平和構築は夢ではない

今のところ心配の種は「今後の課題」という言葉にある。もしも、非核化と体制保証は宣言だけにとどまり、まるで及び腰のような状態にならないかという不安だ。しかし方法は外にない。北朝鮮が今回の機会を見逃せば、制裁はこれまで以上に強まる。トランプ大統領も米朝政界で生き残るためには、より積極的にこの問題に取り組むべきだ。韓国の文政権のなすべきことも多い。米朝の仲裁役は勿論のこと、日本・中国・ロシアなど周辺諸国へももっと具体的な働きかけが求められる。

韓半島の平和構築は東アジアの最も大切な課業だ。平和は捨てがたい神の命令でもある。我々も祈りを込めて大きな歴史的な転換ぶりを忍耐強く見守るべきだ。ようやく韓半島の平和が実態として見え始めている。

(国民日報シニア・コラムニスト)

百人町教会五〇周年に寄せて

坂 敬夫

イエスとの出逢い

私がイエスと出逢うのは、一九四一年大戦中の八歳の時、姉達に連れられて代々木にあった美竹教会であった。牧師は浅野順一先生。気骨ある、厳しい師で専門は旧約聖書学。特に、預言者の研究。戦後青山学院中学に入學すると、宗教主任で、終生恩師として導かれるとは思ひもよらなかった。高一のとき受洗を申し出ると、「ロマ書の前半」と「ガラテヤ書」を読んでレポートを提出する宿題が出された。返ってきた紙面には注解書を写した部分は（不消化）、自分で書いた箇所は（然り）と挿入されていた。

その頃先生はよく、「聖書の言葉は牧師であればだれでも語ればよいというものではない。旧約聖書には、偽預言者の出現を警告する箇所もある」と言われた。

また先生は、「これからの教会の在り方は、一人のカリスマ的牧師が多数の信者を育てるのではなく、蜂が分蜂するように、地域社会に出て地域に奉仕する教会が求められる」と。足立梅田教会、川崎戸手教会、牛久教会、砧教会、新泉教会、美竹祈祷礼拝（後の百人町教会）、鶴川北教会と発展的分散をし、多数の若い牧師が育った。

イエスご自身がユダヤ教のシナゴグやエルサレムの神殿で布教されることなく、ガラヤの漁師たちを弟子とし、洞窟の病人や貧

しい人を訪れ、癒し、共に食され、神の御心を示された。

百人町教会の流れと設立まで

一九七〇年一月一日に美竹教会から出てきた人々が仮称・美竹祈祷礼拝として、矯風会第二会館の小部屋を借り、笹渕昭平さんの奨励で祈祷礼拝を始めた。翌年のイースターには仲間が増え三〇名を超えた。

百人町の仲間の弁護士、今村嗣夫氏、小池健治氏を中心として、政教分離、靖国神社国営化反対、天皇制反対等の活動に取り組み、抗議行動に参加した。

木田敏一先生の参加

ドイツから帰国した木田先生は集会に参加し、神学的指導をしてくださった。ご自身の旧約研究にも力を入れ、特に二つのテーマを持つていたように私は受け取っている。

①聖書は表面の字面だけ読んでいては何も入ってこない。各自自由に批判的に読むようにする。（主体性の喚起）

②神の贖いは、政治的、民族的次元にとどまらない。終わりの日に神の律法が各人の心に記される。・・・私には、これがイエスの十字架の贖罪を指すのか？いまだに理解できないが、先生は「贖いの運動」を首唱された。

阿蘇牧師の着任

教会内の働きが多岐にわたり、会員も増加するに従い、会員の中から、中心になる牧師を招聘したいという願いが出された。一九七五年木田先生が集会を代表して、弘前にいる

阿蘇敏文・道子夫妻にお願いし、八月に承諾を受けた。一同感謝であった。

日韓交流の始まり

以前より、西片町教会の婦人会は韓国のある中央教会の朴聖慈牧師と交流があった。朴牧師が来日された折、百人町教会でも説教をしていただいた。懇談の時に蚕室中央教会と交流したいとの希望が多くあった。その後木田先生が一九七九年一〇月にソウルで開かれたアジアキリスト教神学者会議に参加の折、朴聖慈牧師と話し合い両教会の交流に見通しがついた。阿蘇牧師は朴牧師と阿畔の呼吸で合同修養会を中心とした姉妹教会活動を進め、日韓交流に務められた。

阿蘇牧師から賈牧師へ

一九九五年一月阿蘇牧師より突然辞任の申し出があり、九六年二月末辞任。その間、後任牧師の招聘準備に入り、全教会員、出身牧師等にアンケート調査を実施。一九九二年二月に韓国より立教大学木田ゼミで学ぶため来日、百人町教会に出席していた賈牧師が九七年一月から就任。蚕室中央教会の出身教職であるため朴牧師も喜んでくださった。これで日韓の絆は不動のものとなった。感謝。

これから

沖繩問題に関心を持ち続けていきたい。できることならもう一度沖繩を訪れたい。

百人町教会がふたたび、韓国の教会と交流できるのが願いである。

出身教職だより

耕すことについて

金井 美彦

私の恩人の一人、故阿蘇敏文牧師は農業牧師として、竜ヶ崎に農園を開き、そこを拠点として、教育的「牧会」に勤しんだ。私自身、一九九〇年頃から有機農業の可能性に関心を持ち、やがて自分も関わろうと考えていた。もちろん、農業は実際には工業のアナロジーで理解され、機械と農業によって合理化効率化された結果、命の基本に農があるという本質的なことが見失われていた。そうした現実の中で、阿蘇先生は実に地に足の着いた活動をしていったと思う。

しかし、農の持つ豊かさを考えていくうちに、農業そのものが効率化され合理化され、人々がそこから離れていくのは、当然のことだとも思うようになった。私の父方の祖母の実家は戦国期に信州から武州に移動して以来、江戸期を経て昭和後期まで「百姓」であったし、母の実家も江戸中期に近隣の集落から分家し、新たに開発された田畑を耕作する百姓であった。しかし今では兼業とはいえ農の部分は極めて小さくなり、すでに「百姓」ではない。農の風景は日本の原風景であり、広大な田圃に稲穂の姿は、感動的でさえある。しかし、いつ頃からか、これは圧倒的な権力によるモノカルチャーであり、ある種の「制覇」であり、大地の征服であると感じるようになった。これを担ったのが「百姓」と呼ばれた、事実上の農奴であった。彼らは農業を選んだ

のではない。いつのまにか農的人間として大地へとあてがわれ、耕す者とされたのである。

ところで、一昨年、創世記の失楽園の記事を読んで改めて気づいたのは、要するに「耕す」という行為は罰であることだ。簡単に言えば農民が田畑を耕作するのは、生活の基本を担うとかいった理想的行為などではなく、単に罰として与えられた仕事である。つまり、農とは普通イメージする牧歌的で生産的、自然との共生を実現している理想的な仕事ではないというのである。さらにヘブライ語でみると「耕す」と日本語に訳されている語は、固い土を柔らかくする行為を意味するのではなく、「隷属する」という意味である。つまり大地に隷属するという意味である。そもそも農的行為はオリエントにおいて農奴がする仕事、つまり都市国家や王権の圧倒的な支配のもとに隷属する人々が行った仕事である。

創世記の物語は、二章五節以下のヤハウイストの文書で、初めは地を耕す者はいなかったというが、うがった見方をすれば、大地に隷属する人間はいなかったということではないか。もちろんアダムは土からできたが、彼はエデンに住み、地を耕すことはしない。ただし、エデンの園を耕したとあるが、これは耕すことに対する理解の甘い編集者が誤って入れたのだろう。なぜならエデンにはすべてあったからである。やがて神の掟を破ったアダムとエヴァは追放され、アダムは「耕す者」

となった。これは簡単に言えば、古代オリエント世界にすでに存在していた「耕す者」、すなわち「隷属する者」、実際には都市国家や王権の支配に服し、農奴となった者の隠喩なのではないか。

詳細な議論はここでは略すが、創世記の記事は、私たちが「耕す」という語から連想するある種の豊かさとは全く反対のイメージを持つ言葉を鍵語としている。これに着目する時、「農」がなぜ廃れるのか、なぜ農は効率化され合理化されなければならないか、そして農民たちがそれを受け入れ、さらにそこから離れることを良しとするのかがわかる。つまり、日本においても農は被支配者の、不自由な仕事であったからである。それゆえ、もはや農のある種の郷愁をもって、理想化することはできない。仮に農を新たに選ぶなら、それは自らの自由において、なされるべきである。それでもなお、農の持つ問題は残る。つねに大地の征服を志向する点で、農は常に権力的なものと親和的とならざるを得ない。日本の農民が結局ずっと農協と自民党支持であるのはその証でもある。このような本質的な思考と現実の姿を踏まえたうえで、古代イスラエルの知者はおそらく、古代オリエントの文化 (culture ≡ 耕すこと) と文明 (civilization ≡ 都市化) の両方を超える世界を夢見たのではないだろうか。今年の夏、改めてこの考えを整理しようと思っている。

(日本基督教団砧教会牧師)

図書紹介

『君たちはどう生きるか』吉野源三郎著
岩波文庫 新装版と漫画(マガジンハウス)

私がこの本の事を知ったのは、昨年一二月三十一日の小池恵子さんの会員日誌で、《恵子さんのお兄様の中学入学時に、お父様がプレゼントされたのがこの本だった》と。その事に強く羨望を覚えながら、遠からず読みたい、と思いました。

それから間もないある日の新聞にこんな文字が躍っていたのです。漫画『君たちはどう生きるか』百万部。名著ブーム学校も。今の子の悩みとリンク。都内の書店に山と積まれた漫画本のカラー写真と原作者吉野源三郎の写真と本の解説。インパクトのある記事でした。折しも家庭集会で次回はこの本にしよう。と決まり、早々に読むことになったのです。私は活字が大きいので新装版を選びました。池上彰が前書きの中で「子供たちに向けた哲学書であり、道徳の書。ヒューマニズムに根差したよい本は、時代を超えて人々の心をつかむ」と絶賛していますが、彼は名案内人です。発売から四か月で百万部突破したという漫画本は、家庭集会では不評でした。「岩波文庫版は丸山真男の文が載っていてそれがよかったです」と買牧師。それではと、後日私も読んでみました。

原作は雑誌『世界』初代編集長で岩波少年文庫の創設にも尽力された吉野源三郎が一九三七年に刊行し、岩波文庫などで読み継がれ

てきました。主人公のコペル君は、いじめや貧困などの現代にも通じる人生の課題に直面する中学生。亡き父に代わって助言者の存在となった叔父と語り合いながらそうした課題に向き合い模索していく姿を描いています。《友達が上級生にいじめられている現場に居合わせながら怖気づいて逃げ帰ってしまった自分をみつめ、苦悩するコペル君》のくどりは、とりわけ私の心深く残りました。

岩波文庫版は、丸山真男が故吉野への追悼文中で「難しいテーマをとっても身近な出来事を通して見事に説明している」と、児童文学者ならではの吉野の偉業を絶賛したうえで、コペル君に重なる、自身を卑劣な人間と恥じる体験を赤裸々に綴っていて圧巻です。

と、こんな真面目な古典本が、現代っ子たちに読まれてブームが続いているというのはどうして：？嬉しい、けれど、気になっていた。この問いを、ヒョッコリ帰省した息子(タイ在住)にさり気なく投げかけてみましたら、息子「どこの本屋にも積んであったよ。小林多喜二の『蟹工船』が前にブームになったのを憶えている？あの時と似ているよね…。五年か一〇年かそんなくらい前かな。世の中心どいじゃない？貧困、非正規、いじめとか、いろいろ。そんな時代背景があつてさ…。」私「こんな時代に必然的な現象つてこと？じやあ一過性のもんじゃないんだ」と。久方ぶりに束の間の交流ができました。

(小野寺 寿々恵)

ろばのせなか

四月一日イースター礼拝。新学年が始まる日。買牧師は最前列真ん中の席を「今日のあなたたちの席」と一年生になった愛実ちゃん、ゆりちゃん、玲ちゃんに示された。三人は教会からのプレゼントをたくさんもらってニコニコ。三人を囲む私たちもニコニコ。この笑顔いつまでも。イースターの遠足、新宿御苑。三〇名参加。持ち寄りのおべんとうはおいしく、降り注ぐ桜吹雪が美しかった。



にっこり三人の新入生

牧師の証詞にあるように、今号から百人町教会の五〇年をつづっていた。トップバスターは坂敬夫さん。会員の方々には「ろば」と「証詞」で「私と百人町教会」を語っていただく。神鷹さん、金井さんには自己の取り組んできた課題。韓国の趙容来さんには締め切りぎりぎりまで伸ばして、朝鮮半島の最新の様子を書いていただいた。小野寺さん紹介の『君たちはどう生きるか』は売れ行きを伸ばし漫画版二百万部、新書版五十万部。

(雨宮 道子)